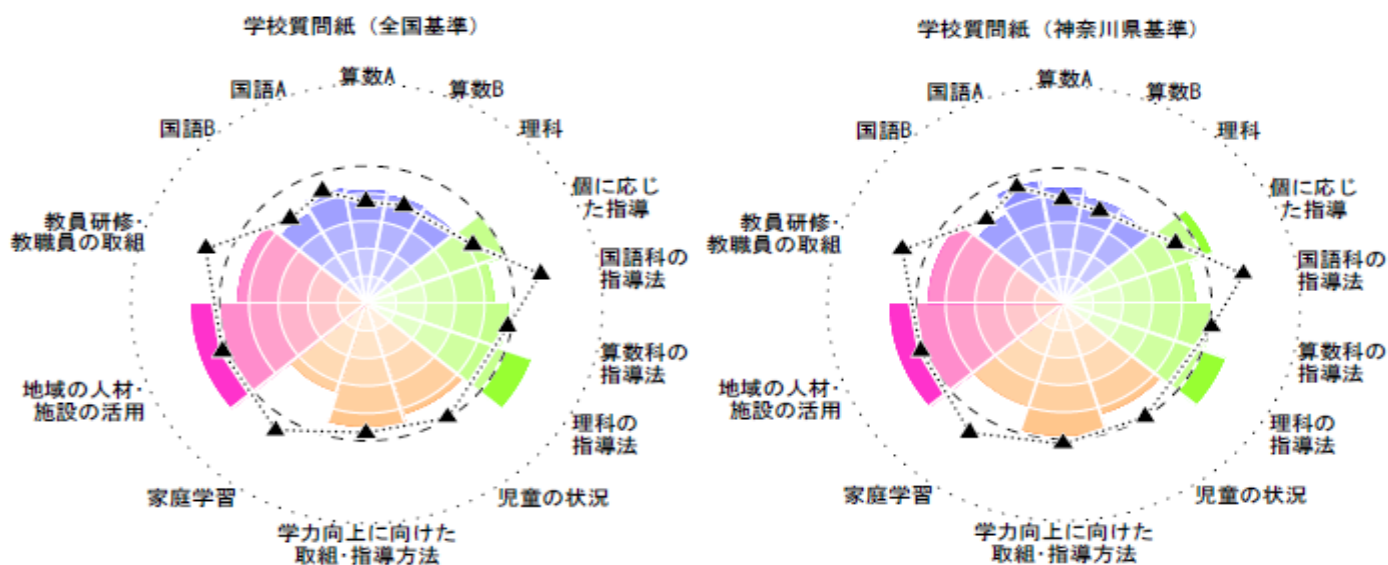


## 全国学力・学習状況調査結果について

横浜市立新井小学校

平成 27 年 4 月に 6 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりましたのでお知らせ致します。

この調査結果をもとに、児童一人ひとりの力をつけることに取り組んでいきます。



### 【国語】(国語 A・国語 B)

国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、と「言語」に関する内容について学習します。

- ・国語 A は、学習した内容のうち、しっかりと身につけておいた方がよい基礎的・基本的なものをみる問題です。
- ・国語 B は、評価した理由を書いたり、文章や情報を比べたり関連づけたりして読み取ったり書き換えたりする問題です。

《調査結果》

本校の平均正答率は、全国平均正答率、国語 A (70.0%)、国語 B (65.4%) よりやや下回っています。

○課題として考えられること

- ・目的や意図に応じ、記事に見出しをつけるなどの書く力が弱い。
- ・登場人物の気持ちの変化を想像するなど、内面を読み取る力が読み取る力が弱い。
- ・漢字の読み取りは良い結果を示しているが、書き取りが弱い。
- ・要点を整理して人に分かりやすく伝える力がやや弱い。

○課題に対する改善の手立てについて

- ・読書活動の充実を図る。(読み聞かせなどの活動を通して本の興味を喚起する)
- ・朝学習(漢字などの学習ドリル)の促進
- ・国語科だけでなく全教科を通して書くことを中心とした表現力の育成を図る。

### 【算数】(算数 A・算数 B)

算数では、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」に関する内容について学習します。

・算数 A は、学習した内容のうち、しっかりと身につけておいた方がよい基礎的・基本的なものをみる問題です。

・算数 B は、学習した内容を使って、身の回りの場面を観察したり、いろいろな場合を調べたり、式や図、グラフなどが表している内容を読み取ったり、筋道を立てて考えたりする問題です。

《調査結果》

本校の平均正答率は、全国平均正答率、算数 A (75.2%)、算数 B (45.0%) よりやや下回っています。

○課題として考えられること

- ・小数の加法の結果を、減法を用いて確かめる知識や分数の計算処理などは上回っているが、図形領域の問題がやや下回っている。資料から、必要な情報を読み取る力がやや弱い。
- ・学習した内容は知識として理解されているが、生活に十分に活かされていない。

○課題に対する改善の手立てについて

- ・国語科を中心に他教科との関連を図りながら考える力・読み取る力を育成していく。
- ・家庭との連携・協力の強化促進を図る。

### 【理科】

理科では、A 区分「物質」、「エネルギー」 B 区分「生命」「地球」に関する内容について学習します。

・「物質」では、水蒸気の状態の説明、水の温まり方、メスシリンダーの使い方などが出題されました。

・「エネルギー」では、ふりこのしくみ、電磁石についてなどが出題されました。

・「生命」では、メダカに雌雄の見分け方、顕微鏡の適切な操作方法などが出題されました。

・「地球」では、星座や雲の動き、地面に水をまいたときの地面の様子などについて出題されました。

#### 《調査結果》

本校の平均正答率は、全国平均正答率、物質（57.4%）、エネルギー（65.6%）、生命（61.2%）、地球（57.8%）よりやや下回っています。

#### ○課題として考えられること

- ・観察、実験の器具について、適切な操作技能に関する知識の定着がなされていない。
- ・予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験したり、実験結果をもとに自分の考えを改善したりする力がやや弱い。
- ・科学的な言葉や概念は理解しているが、グラフを基に考察して分析する力がやや弱い。

#### ○課題に対する改善の手立てについて

- ・器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方の理解を図る。
- ・学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考える力を育成していく。
- ・事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を言葉で説明する力の育成を図る。

### 【基本的生活習慣に関わる内容】

- ・学校以外の学習時間を2時間以上している割合は、全国平均（25.7%）をやや下回っている。
- ・朝食の摂取率は全国平均（95%）をやや下回っている。
- ・就寝時刻および起床時刻が規則的である割合は、全国平均より低い。
- ・テレビの視聴時間が3時間以上、ゲームを行う時間が2時間以上、携帯電話・スマートフォンを使用する時間が2時間以上である割合が、全国平均より高い。
- ・普段から読書を30分以上している割合が低い。
- ・地域行事への参加率が、全国平均（67%）を上回っている。さらに、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に対し「ある」の割合が高い。
- ・規範意識「学校の決まりを守っている」がやや低い。
- ・自己肯定感「自分にはよいところがある」に対し、「そう思う」の割合が全国平均より高いが、「そう思わない」の割合も全国平均よりも高い。

基本的生活習慣の確立が、学習面や心の発達に結び付くといわれている。規範意識や自己肯定感を高めていくことが本校の課題であり、生活習慣の改善からも、子どもたちの健全育成を図っていく必要がある。

また、テレビやゲームなどに費やす時間が長く、睡眠時間が十分に取れないことは、学習意欲や能率の低下にもつながる。家庭と連携・協働して改善し、子どもたちの生活力を高めていきたい。

今回、子どもたちの地域や社会に対する意識の向上が見られた。引き続き、地域と連携した教育活動を行っていく。